

日本で一番、 写真が愉^たしめる街・御代田へ

旧メルシャン軽井沢美術館の敷地および建物の活用について
写真や映像制作のエキスパート集団、株式会社アマナと、平成
29年1月12日に基本合意しました。
そこで、株式会社アマナの協力により写真の魅力を感じても
らえるよう今月号から3回に分けて連載を企画しました。

2020年御代田町。世界で活躍する日本人写真家たちの作品群が常設展示された美術館本館には、国内外問わず高いレベルの写真ファンが訪れ、レストラン棟は「レタス料理」を売りにしたおしゃれなお店が軽井沢からの観光客を迎え入れ、他の棟では毎週週末、こども写真教室、カメラ専門誌編集者によるベテランカメラマン向けの写真教室、家族写真をフレームに入れて飾る講座やレストランシェフによ

る料理教室、アウトドア講座等で、町民とさまざまな人々が交流する。そして夏には、美術館の緑地部分や雪窓公園、やまゆり公園、龍神の杜公園で数百点の大型写真を皆で楽しむ。日本では珍しい屋外型写真展や武満^{むつみ}徹^{とほ}の音楽とアートを楽しむ、国内外の写真ファンが御代田町に集う……

これが1月12日に、旧メルシャン軽井沢美術館の土地と建

物の活用に関するアマナと御代田町が締結した基本合意が目指す方向です。

素敵ですよね。ちよつと無理と思われるかもしれませんが。しかしヨーロッパには、「写真」をテーマにしてフェスティバルを開催し、たくさんのお客を集めている町がいくつもあります。

例えばフランス西北部にLAGACILLY(ラ・ガシイ)という町があります。緑豊かな風景である点は、御代田町に似ていますが人口は2,000人。ところが、この町に毎夏30万人が訪れます。毎年、テーマに合わせた大型屋外写真、約1000点が、町の12カ所に飾ってあり、観光客は、地図を見ながら

町を回遊し、それらの写真について語り合い、アームチェアに座って、素敵な自然の中に溶け込んだ写真を眺めてのんびりと高原を楽しみます。



LAGACILLY(ラ・ガシイ)



VEVEY (ヴヴェイ)



ARLES (アルル)

レマン湖畔にあるVEVEY (ヴヴェイ)という町でも「image」という写真フェスティバルが隔年で開催されています。この町は、人口17,000人で、御代田町と近い規模です。ここでは、ビルの壁面に写真の布で覆ったり、湖に写真をプリントしたように見せかけたり、やや都会型のフェスティバルが2年に1回開催され、30万人を

集めています。

最も大規模な写真フェスティバルは、南フランスのリゾートで、ゴッホが住んでいた町でも有名なARLES(アルル)です。80日間にわたって20以上の展示、50以上のセミナーや写真教室が開かれ、最初の10日間は、世界から有名な写真家も集まり、市民と交流します。ここは有料なので10万人の集客ですが、それ

でも世界の写真ファンには定着したフェスティバルで45年も続いています。

「写真フェスティバル」は、たくさんの人を集める力を持っており、町が素敵になります。考えてみれば世界で使われているカメラの90%以上は、日本ブランドで、周りを見れば、「写真を撮る」事は大好きな国民なのに、日本でこうした本格的な写真フェスティ

バルが開かれていないのは、とても残念な状況でした。また、日本全国に美術館は過剰なほどにありますが、写真美術館は数えるほどしかありません。

さて、アマナと言う会社はご存じないかと思えますが広告の世界ではたいへん有名な会社です。皆さまがコマーシャルフィルム、企業サイトで見る動画の制作、ウェブサイト自体やスマホアプリ等の企画制作、企業向けのビジュアル制作では日本最大で1,000人のクリエイティブ企業です。そのアマナが、2011年から個人の生活空間にも素敵な写真を取り入れるプロジェクトを始めました。その一環で、こうした海外フォトフェスティバルに協賛し、出展し、経験してきたわけです。

そして、現在でも800点の世界クラスの日本人写真家によるアートフォトコレクションを保有しています。アマナは、その作品群を旧メルシャン美術館の常設展示として収めようと考えています。

実は、この日本人アート写真家とその作品は、世界で抜群の人気を誇っています。冒頭にご紹介した3つの写真フェスティバルでも、日本人写真家が活躍しています。でもその事が日本でもあまり知られていません。世界で高い人気を誇る日本人写真家の常設美術館を作る事によって、御代田町は、世界のMIYOTAになる可能性を秘めているのです。